

第6回乙訓圏域障がい者自立支援協議会地域生活支援部会会議録

日 時 平成29年3月13日（月）午後1時30分～3時30分

場 所 乙訓福祉施設事務組合 大会議室

出席者 地域生活支援部会委員 11人

キャンバス・乙訓ひまわり園・NPO法人こらぼねっと京都・乙訓福祉会・乙訓若竹苑(代)・乙訓の障害者福祉を進める連絡会(2)・乙訓保健所福祉室・向日市障がい者支援課・長岡京市障がい福祉課・大山崎町福祉課事務局 2人

欠 席 乙訓障がい者基幹相談支援センター・京都府立向日が丘支援学校・乙訓やよい会

会議の公開・非公開 公開 傍聴 2人

配布資料・次第

- 平成28年度地域生活支援部会 活動報告（案）

資料確認

1. 今年度の取組みのまとめについて

(部会長)

・第6回の地域生活支援部会を始めたいと思います。今日の基本の議題は取り組みのまとめについて、本来でしたら今日までにメールで配信をしておいて、読み込んでいただいて、今日ここで議論という予定になっていたのですが、ごめんなさい。私の確認も週明けになってしまい、申し訳ないですが、今日いきなり皆さん的手元にということになってしまっています。申し訳なかったです。それでは原稿を読み込んでいきながら、文章を確認していきながら、その中でもし検討したり、議論をする必要があることが出てきましたら、そのことをまとめて議論するということで一旦、活動報告案の読み合わせに入りたいと思います。よろしいですか？

(井上副部会長)

・平成28年度乙訓圏域障がい者自立支援協議会地域生活支援部会活動報告（案）となっています。まず1番目の「設置の目的、役割等」についてはこの間、自立支援協議会が始まってからの目的・役割等をそのまま引き継ぎ、書かせてもらっています。

※平成28年度地域生活支援部会 活動報告（案） 1 設置の目的、役割等 読み上げ

・昨年度までの経過ということについては昨年度までの報告書を参考にさせてもらって書かせてもらった内容です。

※平成28年度地域生活支援部会 活動報告（案） 2 昨年度までの経過（1）協議事項 読み上げ

(部会長)

・これは28年度の活動報告を元に書いてもらっているのですか？

(井上副部会長)

・平成28年度の活動報告なので昨年までの、平成27年度のまとめの部分です。

(部会長)

・27年度の活動報告を元に書いてもらっていますね。ここまで何かあれば言ってください。

(北達委員)

・「協議事項」ですか？「協議事項」で良いのですか？

(部会長)

・この「協議事項」って、実はこの活動報告は各部会の活動報告の形式というかフォーマット、項目立て等を揃えることをここ何年かけてずっとやってきました。相談支援部会の方でも話題になったのですが、若干ここ数年の色んな経

過の中で、そぐわないよねっていうのがこの「協議事項」というこの項目です。そこを相談支援部会の方でも運営委員会に全部をまとめて項目立てを揃えているので、そこを一回、問題提起というか、しましょうかということになっているので、ここからもそれであげて良いのだと思います。今日、協議した内容だけでなく、取り組んだ内容等があるので言葉としてもそぐわないようであればそぐわないので、この章立てをちょっと検討し直してほしいという風にあげても良いと思います。

(北達委員)

- ・脱字ですが、8行目の「今後どのように進めて」の「て」が抜けています。

(部会長)

- ・下から3行目の「実現できるように。」が、丸になっているのですが、これは去年の報告書がこうなっていたのですか？

(井上副部会長)

- ・去年の「次年度の課題と方針」のところに出ていて、そのままになっています。ごめんなさい。

(部会長)

- ・点、点で続くから丸にした経緯があったのだと思うのですが、「ように。」では文章として違和感があるので。どうですか？言ってください。

(安蒜委員)

- ・前半部分は「昨年度までの経過」の「報告事項」から引っ張ってあって、後半の生活介護の話は昨年度のまとめの「5次年度の課題と方針」の半分は引っ張っておられるのですが、引っ張り方がどうかなと思って。アンケートについてはもっと精神の話があるよとか相談の話があるよという課題をあげておられるのですが、それが今置いておかれ、それぞれ取ってきているところが違うのですが、これは何を言うべきなのかなと頭がまわらないのですが。

(部会長)

- ・ここは27年度までの経過。

(安蒜委員)

- ・経過ですが、明らかに平成27年度のをそのまま引っ張っていますよね。去年の報告書で「今年度の協議内容」で「3つのグループに分けた」等を書いてあるのですが、それが今年また「3つのグループに分けた」とか、そういうことまで書く必要があるのか。それよりはさっきの相談の方の問題もあるとかそういう方を入れた方が、毎年同じ中身になってしまふので。さっきの生活介護を「5次年度の課題と方針」から引っ張ってこられたのなら、そっちの方でまとめてしまった方が、結局27年度の議論のやり方をもう一回ここで書かれてもあまり意味がないのかなと思うのですが。

(部会長)

- ・そうしたら、「平成27年度は、平成26年度に実施した緊急時対応アンケートの整理、地域生活支援拠点について協議し、取り組みました。」までは残す。事実として。その後の「緊急時アンケート」から「今後どのように進めていくのかの意見が出ました。」のところまでを、どこを残して、どこを切るかなのですが。

(安蒜委員)

- ・そこまでが去年の「協議の概要」に入っているところです。次の「(2)まとめ」のところに「アンケート回答を分類することで」と入っています。去年の報告書では。

(部会長)

- ・それでは「概要」は無しにして、「アンケート回答を分類することで」の文章を残しましょう。

(安蒜委員)

- ・同じ文章になりますが。

(部会長)

- ・ここは基本的にはほぼ同じ文章で良いと思います。経過なので。今年度の委員さん、来年度の委員さんはその前年度の分を読んでいない人もいらっしゃるので、これは各事業所さんで引き継ぎの資料としてはもちろんあるけれども、来年度、29年度に議論をする時にあつたら良いものということでいくと、最初の「地域生活支援拠点について協議し、取り組みました。アンケート回答を分類することで」ということで、この「明らかになりました。」は残して、この後に

精神のこと、当事者の「ご本人からの回答」云々というのは、「分類することで、障がいのある人とご家族が緊急時に～明らかになりました。」、もう一点、保留にしたものがあったということは経過の中で書いておかないと、それを引き継いでやるということにつながっていかないので、ここに「障がいのあるご本人からの回答についての対応を」云々という文章が去年の報告書にもあったと思うので、それをここに入れませんか？どの文章かというと。

(奥田副部会長)

- ・「次年度の課題」のところの2段落目からのところですね。

(部会長)

・良いですか？そこにそれが入ることで課題のところが網羅されました。それから「平成25年度から課題とされてきた生活介護のサービス供給量が」というこのことは、要は数が足りたらそれで良いということではないということは引き継いではいけないといけない、忘れてはいけないことなので、文章は触らないといけませんが項目としてはこのまま残すということでOKですか？

(安蒜委員)

- ・「協議事項」と今言われたけれども、結局、次に引き継ぎたいことをここに載せるということですね？

(部会長)

・そうです。「今までの経過の中でこんなことがありました。今年度で終わりました。引き継ぎません。」なのか、「今年度も協議しました。引き継ぎます。」なのかという項目をここに網羅しておきたいので。それでいくと「平成25年度から課題とされてきた」というこの4行は今の状況の中で言うとなくても良いのかもしれません。ただ、その後、「本人が選べるもの」とか量とか質とか、量だけでなく種類、何と言えば良いのでしょうか、質と言えばまた語弊があるかもしれません、そういうものを考えていく必要があるということは残したいので、下から8行目の「平成25年度から～明らかになりました。」という「平成26年度の」前までをカットして、平成26年度報告書での、ということが今もまだ引き継がれていますよということを文章化すれば良いのではないですか？だから、足りなくなるという意味合いでの議論よりも選べるものちゃん用意していきましょうという議論に質的転換をしたよということだと思います。また、もしかしたら足りないという日が来るかもしれないけれども、今この圏域で考えたいことは、やはりこれは数があれば良いというのではなくて選べることが大事なんだよということをここに残しておきたいかなと思うのですが。だって、供給量が足りなければ選べるという話ではないので、選べる・選べないという話は供給量の充足の上に成り立っている話なので、上位項目のわけだから。

(安蒜委員)

- ・生活介護等だけでなく結局色々なサービスが得られていないから。

(部会長)

・それが今年度の報告、もしくは来年度への引き継ぎの中で、やっぱり緊急時対応も含めて生活介護が足りない云々ではなくてサービスの種類とか運用とかですよね。緊急時ということは非日常な場面での運用とか、そういうことの使いやすさとかそういうことの検討が必要になってくるということを今年の報告の中に、もしくは来年度への引き継ぎの中に入れていかないと、このアンケートの集計のことが集計で終わってしまいます。今言ってくれたようなショートのことも含めて、そこをもう一回見直さないといけないということに、来年度のところに持つて行かないといけないと思うので、ここにあまりエネルギーをかけないで、ここはあっさりいきたいなと思うのですが。

(北達委員)

・それは凄くわかるのであっさりいきたいのですが、でも、供給量が足りないということから生活介護を乙訓福祉施設事務組合でという話もあったので、そこは。

(部会長)

・そこを触れておきたいですか？ごめんなさい。私個人の意見として今年度にそのことの議論を諂くしないといけない事態が起きていないというか、終わったこととして今年度スタートしているから、そこはあまり蒸し返さなくても良いような気はしているのですが。

(北達委員)

・わかりました。じゃあ、それでも良いですが。

(安蒜委員)

・去年の再確認のところだから、去年の文書もそんなにいじってもいけないので。

(北達委員)

・そうですね。そういう配慮もあるので、もう良いです。

(部会長)

・蛇足ですが、もし、例えば公的施設の役割についての議論が次にくるのであれば、そこに入れておかないといけません。来年度に引き継ぐべき議論の根拠になるものは入れておかないといけないけれど、そこの項目が引き継ぐべき項目で今ないとしたら、もうそこはあっさりいきたいなと思います。メリハリをつけたいなと思うのですが。なので、5行目の「平成26年度の報告書での『障がいのある人自身や家族が希望する選択が可能になっていくべき』という意見」が27年度・28年度とどう考えたかということをこの経過の中に入れたいのです。何か言ってください。「意見が実現できる」というのも変なのですが。そうしたら、言ってくださいね。「平成26年度での報告書での『障がいのある人自身や家族が希望する選択が可能になっていく』ことが実現できるように」にして、その後に何がほしいかをあげてください。そうしたら文章にまとめます。何をしていかないといけないか、していこうということになったか、後付けになりますが。サービス量の確保なのか、具体的な対応と一括りにして言ってしまうのか。文章慣れしている行政職の方、すみません、お助けください。私ひとり喋っていますが、言っていかないと文章ができていかないで言ってくださいね。

(安蒜委員)

・ここの文章を丸めたいという話ですよね。

(部会長)

・そういうことです。それでいくと、「支援学校卒業を見すえた進路希望や決定がスムーズに進むよう」は要らないと思います。だけど、「早期に不足が見込まれるサービスを確保することについて」云々というのは入れておいても良いかもしません。「不足が見込まれる」にしないで、「選択が可能になる」。

(北達委員)

・その人に応じた色んな多種多様なサービス量ということですよね。

(部会長)

・そういうことです。ここの文章を後で使えるように丸めたいので。こんなところにバリエーションって入れないですよね？何って言うのか、種類が豊富な？その辺りが言いたいのですが。「選択肢が可能な」ということはそういうことだから。

(安蒜委員)

・結局、そういうことを大事にしていこうねってことですよね。そこを忘れずに議論していこうねって。

(部会長)

・そういうことです。それを今年言ったのではなくて、今までに言ってあったよって書いておかないといけないです。経過なので。今までにそんなこと言ってあったよと書いておいて、次の報告にいくので。後付けで凄く申し訳ないのですが、そういうことです。何かうまい言い方はないですか？「多様な」にしますか？「可能になっていくことが実現できるように、多種多様な・・」、「本人の希望に対応できるサービス」、何か言ってください。

(樋口委員)

・「確保」と言ったら数だけみたいなイメージになってしまふので、その次につなげるということであつたら「サービスを充実させる」とかそういう感じが良いのかなと思うのですが。

(部会長)

・そうですね。「本人の夢や希望を実現できる」だったらめちゃくちゃ後付けになりますよね。あまり前の文章で出ていないものを持ってくるのはおかしいので。さらっと言ってください。

(安蒜委員)

・このままでも良いかなと。ただ、「平成26年度の」と始まるのが凄く不自然なので「進路先確保については」等を入れないと。それと、進路は「生活介護」限定で良かったのかなと思ったのですが。

(部会長)

・生活介護は前の文章をカットしているので生活介護という言葉はここには出ません。

(安蒜委員)

・言葉は出てこないのですが、「生活介護」限定で書いて良いのか、「進路先については」ぐらいに広げておくのか。「確認した」で良いのではないですか?これで確認されているので。

(部会長)

・そうしたら、ここはばくっとあまり後付けにしないことにして、これは平成26年度の報告書に出てきた文章なので、それはそのままにして、「していくことが実現できるように、早期に不足が見込まれるサービスを確保することについて、具体的な対応が求められることを課題として確認しました。」ですか?何か変な文章ですよね?27年度までにやったことなので。

(北達委員)

・「早期に見込まれるサービスを確保していくが確認されました。」とか。まわりくどいかなと思うので、「具体的な対応が」は端折っても良いのかなと思うのですが。

(部会長)

・最後、まとめたものを言いますね。「平成26年度の報告書での『障がいのある人自身や家族が希望する選択が可能になっていく』ことが実現できるように、早期に不足が見込まれるサービスを確保していくことが確認されました。」一旦、そこでおきますね。後でまた不具合が出てきたら直しましょう。(2)にいきます。

(井上委員)

※平成28年度地域生活支援部会 活動報告（案） 2 昨年度までの経過（2）報告事項

① 向日が丘支援学校生徒の進路指導状況 読み上げ

(部会長)

・ここまで、何を言っておきたいですか?これ全部はいらないですよね?

(北達委員)

・「進路先が報告されています。」と、あとは「自立訓練事業所を望む声」とか「一般就労へ向けたステップアップ」等そこは書いても良いと思いますが。

(部会長)

・今までの状況の中で今年度の協議事項を始める前の状況で変わっていることなので、28年度はここについてはほとんど触っていないので、ここはこのまま丸ごといらぬないですか?29年度に引き継ぐこととして残しておかねばならないとしたら、上から9行目の「知的障がい（重度）の生徒が複数名いるため、定員に空きがない状況にあるとの報告がありました。」とあるのが、これが生活介護のこととして書いてあるので、生活介護の定員に空きがないということだけではなくて、入所希望の人とかの、つまり、障がいの重い状況にある方の進路先としての空きがないということが無理くりですが今後話題になってくるので、その布石としては置いておいても良いかも知れない。ただ、ちょっと違うので、かなり強引なのですが。そこを無視するとしたら、そこはそことしてまた新たに今年度の課題としてあがってきたところとしておいておくとすれば、もうあえて進路状況は「進路先が決定したことが報告されました。」ということと、下の6行の「さらに」のあと、「就職を希望される方が増えており」という支援学校のちょっと変化してきていく状況については今年度、何の取り組みもしていないけれども課題としてはおいておいても良いかも知れないと思うのですが。この2点、1個目の無理くりはちょっともうやめて、「27年度の卒業生は進路が決定した等の報告がされました。今後、さらに就職を希望される方が増えており」という文章を残して、一応27年度は皆さん、27年度の報告の中では希望のところに行かれましたよね?最終的にはそれで納得せざるを得なかったがあるかもしれないけれども、一

応、27年度の卒業生の人は希望されているところに皆さん行かれたということで、「高等部3年生の卒業生は希望される進路をとられたということが報告されました。」という文章だけにしておいて、「今後は就職を希望される方が増えており、一般就労に向けたステップアップや地域での職場開拓の可能性が高くなっていることが報告されました。」というところにつなげておく。これはこの部会では取り組んでいないけれども自立支援協議会全体としては就労支援部会をどう作っていくかという準備をされているので、そちらに話がいったということで、ここにこういう話題が出ているので一般就労の道をどう開拓するのかというのは自立支援協議会として取り組んでいることなので、これは残しておいて良いかもしれません。

(北達委員)

- ・「希望通り」とそんなことを書いてしまった。

(部会長)

- ・「希望通り」ということがどうなのはわからぬけれども、一応、「希望の進路」というか「進路が決まった。」ということです。

(北達委員)

- ・それで良いのかなと思います。「希望の」と言ってしまうと、個々には「いや、違うよ。」という、その辺がどうなのかなと思ったのですが。

(部会長)

- ・数年前の、実はこっちに行きたかったのに行けなかったから、地活で活用して、ちょっと保留になりましたという事例があったので、そこから考えると今年度はとりあえずそれでいったので、前年度からの引き継ぎの選択肢というところについて、今年は大きく取り組まなかつたというところのかなと思ったので、「希望通り」とは言わないけれども。

(北達委員)

- ・「希望通り」と書くと、ちょっと反論が出てくるのかなと心配がありました。

(部会長)

- ・「向日が丘支援学校高等部3年生21名は」

(安蒜委員)

- ・これは去年の報告書には載っていないのですが。「何名」いたとか。わざわざ載せなくてはいけないのかわからなくて。

(部会長)

- ・なくても良いです。そうですね。「向日が丘支援学校高等部の卒業生の進路が決定したという報告がありました。」ということだけで。

(北達委員)

- ・それで良いと思います。

(部会長)

- ・では、②にいきます。

※平成28年度地域生活支援部会 活動報告（案） 2 昨年度までの経過（2）報告事項

②就労継続支援B型事業所を利用する、特別支援学校在校生に対する就労移行アセスメントの実施について 読み上げ

- ・これはこのままで良いですよね？28年度も順調にいったので、今後この方向でいきますという報告もこの間あったので、このままで良いです。

「③生活介護事業の確保について」ですが、これはもう読まないですね。これは今年度の夏に回答があつたのですね。だから、その回答があつたよという文章を今年度の報告書に載せないといけないので、その根拠になるこの経過は少し置いておかないといけません。どう置いておくか。

(安蒜委員)

- ・書き方が乙福だけの問題になっているように思うので。

(部会長)

・乙福については「生活介護事業の定員枠確保について、平成28年夏頃を目途に結論を出す予定である」ということだけ残しておけば良い。そうしたら「生活介護については利用定員増の方法として乙訓福祉施設事務組合の生活介護事業を拡大するかどうかを協議されてきました。」と、それぐらいの文章にまとめたらどうですか?

(安蒜委員)

・その方が気持ちが良いです。

(部会長)

・「平成28年夏頃を目途に結論を出す予定であるとの返事がありました。」それぐらいのまとめで如何ですか?そのあと次のページの「この報告に対して」云々というのはもうパスして、このことの報告だけは28年度に受けないといけなかったということで。もう一回言いますね。ここはとても行政と関わるところなので確認してくださいね。「生活介護については利用定員増の方法として乙訓福祉施設事務組合が生活介護事業見直しを検討されてきました。」では行政的にはどうですか?つまり、乙福で検討していました。その結果が28年度の夏頃に出ますよということだけをここに残したいので。もう一回言います。「生活介護については利用定員増の方法として乙訓福祉施設事務組合の事業検討がなされました。」もしくは「事業について検討されてきました。平成28年夏頃を目途に結論を出す予定との報告がされています。」ぐらいの文章にしたいのですが、如何ですか?大丈夫ですか?

「④介護職員初任者研修について」は長岡京市社協がもってくれたのが27年ですね?そうしたら、「平成27年度より長岡京市社会福祉協議会が実施主体となりました。」人数はいらないですよね?「今年度」としたら何年度かわからないですね。「受講生を増やす工夫が必要であること、修了した人が新たに乙訓地域で働いてもらうことが課題であるとの報告を受けました。」報告事項なので。かなりシンプルになったと思います。よろしいでしょうか?

「3. 今年度の取組状況」ですが、これは羅列してあるだけの様ですが日にちとか場所等が結構間違っていたりすることがあるので、皆さんの目で確認が要るのでスケジュール帳等を見ながらお願ひします。

(安蒜委員)

・これは場所が載っていないのですが、場所も載せるのですか?去年は書いてあったのですが。

(部会長)

・GM、すみません、相談支援部会の報告書は場所が載っていましたよね?

(事務局)

・載っていますが、こういうのに載せる必要性はあまり感じません。

(部会長)

・そうですよね。それをまた運営委員会で統一しましょうね。では、地域生活支援部会としては場所までいらないのではないかという意見をあげるということで。簡潔にできることは簡潔にしましょう。場所がなくて困っていることもないですよね?

(事務局)

・他のところでやったこともないので。

(部会長)

・この圏域はそこは問題ではないですよね。他圏域だと場所は非常に問題になりますが。

(事務局)

・はい。

(部会長)

※平成28年度地域生活支援部会 活動報告(案) 3 今年度の取組状況(1) 部会 読み上げ

・日が合っていて、曜日が違うということがよくあったりするので大丈夫ですか?「部会長の選任」となっていますが「選出」ですよね?

(安蒜委員)

- ・議事録に「選出」と載っていますが、事務局が「部会長・副部会長の選任」と始めに述べています。「選出」と「選任」がごちゃ混ぜになっています。

(部会長)

- ・他の部会も呼び名等がごちゃ混ぜになっているので、そこは統一しましょう。なので、「部会長・副部会長の選出」。
- 2) の「昨年度の活動報告」が「前年度のまとめと報告」と去年度は書いていますが。

(山本委員)

- ・配られた次第通りに書いたのではだめなのですか？

(部会長)

- ・それが配られた次第の文言が部会同士というか部会の中で色々言葉が交錯しているのがあるので。これは配られた次第通りに書いてくれているのですか？

(安蒜委員)

- ・「活動報告」が「昨年度までの経過」になっているのですが、これは「昨年度までの経過」ですか？その辺はお任せしますが。

(山本委員)

- ・細かいですが、「活動報告について」と下の方が全部「について」となっているので、素直に次第通りに書くのが一番良いかとは思います。

(部会長)

- ・では、元の次第通りにいくと、第1回部会は、ここは「選出」で、「昨年度の活動報告」、「今年度の進め方」となります。

第2回部会は「『緊急時アンケート』のまとめと結果の返し」、「ショートステイ・日中一時の事業所からの報告」。

(北達委員)

- ・次第は違いますが。次第は「『緊急時対応アンケート結果の回答者への報告について』、「短期入所現場からの報告」です。

(山本委員)

- ・それはたぶん開催通知です。開催通知はとりあえず書くことが多いので、やはり次第が議事録上は正しいかと思います。

(安蒜委員)

- ・2回目の次第はこれで合っています。

(部会長)

- ・では、これは全部次第で合わせましょう。次第の中に「について」が入っているのと入っていないのとがあるということですね？

(山本委員)

- ・そうです。

(部会長)

- ・そこはシンプルに、「について」は削りましょう。

(山本委員)

- ・2) は「ショートステイ・日中一時事業の現場からの報告」となっています。

(部会長)

- ・第3回部会は「『緊急時アンケート』のまとめと結果の返し」。

(山本委員)

- ・「『緊急時対応についてのアンケート』のまとめと結果の返し」です。

(安蒜委員)

- ・それも統一しないと、「協議事項」のところでは「緊急時対応アンケート」と書いていて、次のところでは「緊急時アンケート」と変わっているので。

(山本委員)

- ・「緊急時アンケート」で良いのではないのでしょうか？

(部会長)

- ・ここはもう「緊急時アンケート」で統一するということで。ちょっと待ってください。「昨年度までの経過」のところは2行目からカットするので「緊急時アンケート」もカットされてしまうのですが、このアンケートの正式名称は何でしたか？

(井上副部会長)

- ・緊急時対応についてのアンケート。

(部会長)

- ・報告書なので総会資料になりますので、緊急時アンケートについては正式名称にしましょう。なので、それは全部直してください。

第2回部会は、アンケートは正式名称にするとして、「アンケートのまとめと結果の返し」であっていますか？

(安蒜委員)

- ・次第は「緊急時アンケートのまとめと結果の返しについて」です。

(部会長)

- ・「ついて」を切るとしたら、「返し方」？

(安蒜委員)

- ・こういうので「返し」で終わるのは。

(部会長)

- ・ちょっと変ですよね。どうしましょう？

(安蒜委員)

- ・「ついて」を付けておけばどうですか？

(部会長)

- ・付けておきましょうか？わかりました。第1回については「ついて」というのは入りません。「選出について」というのも変なので。第2回部会の「アンケートのまとめと結果の返し」は「返し」でとまるのはおかしいので「返しについて」とします。その次の「現場からの報告」は「報告」なので「について」というのはいらないので「報告」とします。

第3回部会は「アンケート」の何になっていましたか？

(安蒜委員)

- ・「アンケート」のまとめと結果の返しについて。

(部会長)

- ・では、「まとめと結果の返しについて」。2)は「今後の取組みについて」ですか？

(安蒜委員)

- ・はい。「取組み」の「み」はいりませんが。

(部会長)

- ・第4回部会はOKですか？

(山本委員)

- ・「アンケートの報告について」で「結果」がいりません。

(部会長)

- ・「『緊急時アンケート』の報告について」ですね。要は返しの話ということですよね。だから「緊急時アンケート」の報告があったのではなくて報告の仕方についての議論をしたということですよね。だから第3回の部会にならうしたら、内容的には「結果の返しについて」となります。「2) 支援校卒業生の進路について」はこのままですか？

(安蒜委員)

- ・はい。

(部会長)

- ・「3) 生活介護事業所の利用状況」は報告ですか？

(安蒜委員)

- ・「3) 生活介護事業所の利用状況について」と書いてあります。

(部会長)

- ・よろしいですか？

(山本委員)

- ・「4) 今後の取組みについて」とあります。

(部会長)

- ・はい。第5回部会にいて良いですか？

(安蒜委員)

- ・曜日が入っていないです。

(部会長)

- ・「2月1日(水)」ですね。「1) 今年度の取組みのまとめについて」、「2) これからの取組みについて」はどうですか？

「1)」のあとが1文字空いているので、埋めておいてください。上の方が空いているので、全部空けておいてください。
そして、第5回のあとに今日の第6回が入ります。

次にいきます。「(2) 作業部会」ですが「緊急時アンケート」は正式名称にします。ここは、実は「作業部会」なので、
した作業を本当は書いておかないといけないと思います。分類作業をしたのか、返しの書類の作成作業をしたのかとい
うことを書いておいた方が作業部会なので議論よりは作業の中身を書いておいた方がと思うのですが。よろしいです
か？

では、本題にいきます。「今年度の協議内容」です。「(1) 協議の概要」ですが、どうでしょうか？

(樋口委員)

- ・「4」がつきます。「4 今年度の協議内容」です。

(部会長)

- ・そうですね。この4行の中の下2行は報告を受けたことの中にありますよね？

(井上副部会長)

- ・そうです。

(部会長)

・ちょっと「協議の概要」は置いておいてください。今年度報告を受けたことの中身にあったことを書けば良いと思う
のですが、報告事項としてひとつ目は支援学校卒業生の進路の報告はありましたよね。傾向についてもありましたよね。
二つ目は若竹苑のことがありましたよね。順番的には逆ですね。時系列でいくと若竹苑が先ですね。若竹苑の報告と支
援校卒業生の報告とそれから就Bアセスの報告がありましたよね。これ3つが報告を受けたことの中にはないといけない
と思うのですが。そこを考えるとこの概要のところは下の2行がいらなくて。

(安蒜委員)

- ・すみません。「介護職員初任者研修」を毎年報告を受けていたのですが、今年度については受けていないのですが。や
っていらないと思うのですが、なしで良いのですか？プロジェクトでぶらさがっているからと前に言っていたのですが。

(部会長)

- ・運営委員会で報告して、今年度はここではしていなかったですね。

(井上副部会長)

- ・プロジェクトの方は僕が担当させてもらっているのですが、ここに平成28年度のものを入れる予定にはしています。

(安蒜委員)

・この部会で報告を受けていないから。ここで一回報告をしてもらわないと、ここに急に入っていても。

(部会長)

・載らないですよ。

(安蒜委員)

・今日されたらどうですか？ちょうど部会なので。

(井上副部会長)

・良いですか？今年度については6人申し込みがあって、1人辞退されて、5人の方が受講をされました。再試験はありました、何とか5名の方が介護職員初任者研修の方を無事合格されたという話は聞いています。この間、平成21年度からだと思いますが引き続いてやってきたのですが、一旦終了するという方向性で、明日の運営委員会で話をするのですが、その方向で進めているという状況です。

(安蒜委員)

・終了する理由としては？

(井上副部会長)

・当初させていただいた時には民間の委託事業者というのも非常に少なくて、介護職員初任者研修をしている実施事業所というのもほとんどなかったというような状況があったという風にお聞きしています。ここ数年、そういう事業所が増えてきたのですが、そういう事業所の中でもなかなか手も少ないというような状況の中で、この圏域の中でそれを引き続きやっていくには難しいなということと、やはり元々、介護職員初任者研修というような状況が毎年、毎年、人が少ないというような課題も上がってきてはいるのですが、元々の介護人材の確保の今の状況がなかなか難しい状況で、そのものを引き続きやっていくというよりも一旦終了する方向で少し違う形で考えたいということを運営委員会の方に投げさせてもらって、明日ご意見をいただこうかという風に思っています。

(部会長)

・前回の運営委員会では数の報告だけでしたね？その後、プロジェクトの方で話し合って、今の話ですか？

(井上副部会長)

・そうです。

(安蒜委員)

・運営委員会の前なのでその他の方法というところまでは載せない？

(井上副部会長)

・そうですね。

(安蒜委員)

・運営委員会の方に先に言わないといけないですよね？

(井上副部会長)

・流れ的にはそうですね。

(安蒜委員)

・じゃあ、載せられる範囲で載せれば良いと思います。運営委員会で言ってなくて、部会で言って良いのかよくわからないですが。

(部会長)

・本来はこのことはプロジェクトを地域生活支援部会にぶらさげた形でやっているので、地域生活支援部会に報告して、部会で諮るというのが基本だと思います。数の報告と今まででは続けてやりましょうというところだったので、やめましょうということであれば、それこそちゃんと地域生活支援部会で一定議論をして、それは運営委員会に委ねますという結論をここで出すのか、それとも何かもっと違うことをするのか、というのはこの部会でしないといけないことです。だから、私もやめになるという話は今初めて聞いたので。前回までは運営委員会で数の報告だけだったので、私も部会で議論するという発想を忘れていたのですが、そうであるなら部会で一旦、地域生活支援部会でどうしますかという、元々のこのことを始めた理由は人材の不足だったので、人材をどういう風にして確保していくか、人材確保のために

例えば、ガイドヘルプだけの4日間の研修とかで人材確保してもホームヘルプに入ってもらえないとかいうことがあつたので、始めた当時はホームヘルパー2級の養成講座をやっていきましょうということで人材の確保という形で始めてきた経過があると思います。ひとつは新しい人材を確保するという掘り起こしもあったけれども、もう一方で圏域内の事業所さんがグループホーム等で資格がなくても働けるところで関わってくださっている職員さん達をより安く圏域内で研修を提供することによって有資格になってもらう。資格がなくてやれる範囲のお仕事をしてもらっていた方に有資格になってもらうことによって、よりできる、活躍していただける場を増やしていくという意味合いもあって、そういう意味では一定貢献はしてきていると思います。ただ、新しい人材を確保するというのが難しくて受講生が伸びなくなってきたということがあります。その要因としては他にもたくさんそういう養成講座ができてきたこともあげられると思うし、限られた期間の中にかなりの拘束時間を使うわけだから、それに来てくださる方というのが非常に減って、民間の養成をやっているところだと通信とか短い時間帯を長い期間かけて、うちはどうしても秋以降とか短い期間の中にコンパクトに入れないといけないので毎週水・土・5時間～6時間という研修になるのですが、長い期間を通して少しづつ受講できたり振り替えが可能だったりという受講しやすい条件のところが増えてきたということもあって受講生が少なくなって、経費的にはマイナスになっていく、受託してくださっている事業所さんがマイナスを背負わなければならぬ事態になっているので、やめましょうという話になっているのかなと思うのですが。

(井上副部会長)

- ・ そうですね。

(安蒜委員)

- ・ とりあえず提案をしたぐらいで、今から議論は深められないですよね。「という話がありました。」ぐらいで載せる感じで。

(部会長)

・ だから、地域生活支援部会としてはこの話を今から議論するというところにはならないので、人材確保と育成もしくは定着という項目として運営委員会の方に委ねるということで良いですか？この話をこのまま放っておくわけにはいかないので、提案を受けましたでは終わらないので。報告を受けました。来年度も地域生活支援部会で検討課題として引き継ぎますとするのか、それとも相談支援部会の方でも出てきている人材の確保と定着。これは相談の人材の確保と定着だけではなくて、直接処遇職員の確保と定着も全部話題になっているので、人材の確保と定着というところで自立支援協議会全体の課題として報告をします、捉えたいと思いますぐらいために後付けですが、しておくと、まとまりが付くと思います。それを自立支援協議会の課題として、来年度の部会編成の時にもう一度議論してほしい。地域生活支援部会の話題として持ってくるのか。

(安蒜委員)

- ・ プロジェクトが続くか続かないかも関係してくるのですね。

(部会長)

- ・ ちょっと強引ですが、そういうことでよろしいですか？

(安蒜委員)

- ・ もう、それしかしようがないです。

(部会長)

・ すみません。ということで、4つです。戻ります。「協議の概要」のところは前の2行を如何に膨らますかということになりますので「平成28年度も、引き続き緊急時アンケート（ここは正式名称で）についての」、ここです。「整理を中心に報告ができるよう議論を重ねてきました。」なのか、それとも「報告書を作成するということについての議論を重ねてきました。」なのか。

(安蒜委員)

- ・ どう返したらわかりやすいかみたいなことですよね。如何に書いてくださった方に、どうわかりやすく返すかということだったので。

(部会長)

・そっちだと思います。

(安蒜委員)

・「アンケートに答えてくださった」では変ですか？

(部会長)

・本当はそうなのですが。「ご協力いただいた」なのですが。「返ってきたたくさんの意見に答える」でしょうか。

「今年度はアンケートのその内容について、わかりやすく伝えられる報告書の作成について協議を重ねてきました。」ということですよね。わかりやすく伝えていきたいのですが。

(北達委員)

・「緊急時対応アンケートに答えてくださった方にわかりやすい報告ができるように議論を重ねてきました。」ではだめですか？

(部会長)

・良いと思います。良いですか？ちょっと、そこはおいておきますね。やってきたことはそれです。

「(2)まとめ」のところで、ひとつ目は「アンケートの報告書（ここは正式名称）を作成し、配布することができました。」ふたつ目はここの方が大事なのですが。

(安蒜委員)

・結局、このアンケートは回答した方に配っただけで相談支援事業所とかの事業所等には配っていないですよね？

(部会長)

・配っています。

(安蒜委員)

・配っているなら、それも書いても良いし、ホームページのアップも書いておいて良いと思います。

(部会長)

・そうしたら「報告書を作成し、配布することができました。」のところに、「こういう方法で配布することができました。」と書いておきますか？ホームページのアップも。

(安蒜委員)

・「広く知っていただくために、こういう工夫をしました。」みたいな感じで。膨らますために。

(部会長)

・アンケートを別に回答していない人が見ても良いので。

(安蒜委員)

・相談支援事業所も見て、こんなことがあったんだということにはつながっているのですよね？

(北達委員)

・もう一度、確認をお願いします。相談支援事業所さんにも配布していただいていますよね？

(部会長)

・きています。

(安蒜委員)

・当人に返すだけではなくて、一応、共有しましたということですね。「地域での共有の第一歩を踏み出しました。」みたいな感じですよね。

(部会長)

・良いですか？無記名アンケートなので、個人には返していないので、報告書は「地域の事業所やホームページでアップする等のことを広く地域で共有しました。」みたいなことを添えておくということですね？

(安蒜委員)

・はい。「共有した。」ということです。

(部会長)

・それで、「アンケート結果から見えてきた地域の課題についての検討や、障がいのある本人への対応についてが今後の

課題として、引き続き検討する必要がある。」ということを書いておかないといけません。

(安蒜委員)

・それは昨年度までの協議事項にも入れて、更にということですよね？昨年度までの協議事項にも入れておいて、引き続きという感じで、同じ感じで書きますか？

(部会長)

・昨年度までの協議事項のところには1ページ目の真ん中ぐらいにある「アンケート回答を分類することで」云々という文章がありますが、それがそのまま残っているので。

(安蒜委員)

・ここまでで止めるのでしたか？

(部会長)

・その後にもう一文章入れると書いています。

(安蒜委員)

・それがたぶん精神障がいのこととか相談支援のことですよね。それがそこへきて、もう一回、今年度同じようなのを載せるということですね。

(部会長)

・だから、今後もそのことは引き続き、そこに焦点をあてた協議をしていく。引き継ぎ事項として、今年度はそこに触れていないので、そのことを引き継ぎますというまとめになつたら良いです。

(井上副部会長)

・結局、2番の方のまとめのアンケートの報告書の作成に関してはホームページ等々で掲載して広く地域に共有できたということと、二つ目として今言っていたアンケートの結果からの部分は地域の課題や障がいのある人への対応についてというのが今回アンケート当事者として拾えなかつた人達については引き続き触れるということの中身で良かったですか？

(部会長)

・触れるというか、今回アンケートであがつてきた「緊急時に何もできずにいた。」「私的に解決した。」等がいっぱいあって、もっとちゃんと支援を届けないといけないということと、それから今回予想以上に当事者の人からの色々なコメントがたくさんあがつてきた。これは精神障がいの方達へもアンケートを配つたことによることだと思うけれども、それについても対応をどうしていくかということは考えていかないといけない。つまり精神障がいの方達への対応というものが自立支援協議会の色々な議論の中で取り上げられにくい、精神のプロジェクトはあつたけれども精神に特化したわけではなくてサービスとして考えていかないといけないということをここに入れておかないといけません。

今ここで書いてある文章は入らないです。今は差し替えの文章の話です。ということを「まとめ」としておいておいて、それでさつきの報告書があがつてきて、最後「次年度の課題と方針」のところで出てくるのが。

(安蒜委員)

・ここで「地域生活支援拠点」が急に出てきて、でも残念ながらこういう話になったのか。

(部会長)

・なっていませんね。

(安蒜委員)

・はい。

(部会長)

・だから、「次年度の課題と方針」のところでアンケートのまとめから地域の課題として見えてきた、いつでも相談できる、もしくは支援につながるような支援、安心して暮らせる地域であるということに対する希望というか要望というか、「体制整備を期待するものも多数ありました。」これがそうだと思います。次年度に向けて、こういうことがあるので地域の中でどうすれば、どんな支援があれば、どんな仕組みがあれば、スムーズに支援につながっていくのかということを議論していくことは方法として正しいと思うけれども、地域生活支援拠点整備事業というのは今年度については全

く触れていません。去年一回しましたが。

(安蒜委員)

- ・したけれども、載せるほどの議論にはなっていない。

(部会長)

・そうです。だと思うので、そこはこの書き方だとあまりにも唐突すぎるし、せめて地域生活支援拠点整備事業について今年度の協議の中に何かが出てきいたら別ですが出てきていないので何か違う書き方にしないと。意味合いはわかるけれども、どんな書き方をしておくと、地域生活支援部会という部会が何をする部会なのかというところが、この数年、アンケートのところでいっぱいいっぽいだったので。支援校の卒業生の進路とかグループホームの話とか訪デイの話等ここ何年かやってきてグループホームの話は進んでいないけれども訪デイも増えてきたし、支給決定量も増えてきたし、生活介護も十分とは言わなくても、どうしても何人浮くよという話ではならなくなっている中で地域生活支援部会が今後何をしていくのかというところについて、もうちょっとイメージが持てるものにしておかないと部会としては動きづらくなる。

(北達委員)

・ここの地域生活支援拠点の定義ではないですが障がい者の高齢化とか重度化とか家族の不安なことを見据えて、緊急時に対応する必要な仕組みが必要。そのことについて取り上げていくであれば一応、話からは流れしていく。でも拠点とか整備事業と言ったらあまりに唐突なので。でも、そのニーズは確かにアンケートの中から本当に不安だよっていうところは声が出ていたし、それのちゃんとした対応がほしいよというのは本当に部会での総意だと思うので、そういう書き方ではどうですか？

(部会長)

・そこを具体的に上げておく方が良いと思います。この間も別の研修のところで話が出ていたのですが障がいのあるご本人がそんなに高齢者になるという発想が数十年前にはなかった。つまり、障がいのあるご本人は長生きしないという、どこかに暗黙の了解というか発想があって、60歳のダウンさんがいると思っていた時代があったというところで、やはりご本人の高齢化、ということは家族の高齢化で不安がいっぱいあるというところを具体的にあげていく必要があるかなとは思います。この圏域、12月に市長が言う、要は今後この地域の中でどういう仕組みとどういうハード、ものがあれば良いのか、ものが必要なのかというところで部会として何を考えていくのかというので、例えば入所施設の希望というのが結構ありますよね。ただ、入所施設は作られない方針にあるとかいうところで支援校の立て替え云々について、市長が共生型福祉施設というのを竹寿苑を移転する云々ということを言っているのでそういうものが、もし共生型福祉施設という言葉の下で作られるしたら、その共生型の共生する、共に生きるメンバーに障がいのある人が入っているのかどうかというのは凄く重大になってくる。そのためには自立支援協議会の中で障がいのある人達も共に暮らす、共に生きる、その施設の構想に関与していく糸口を作つておきたいというのはこの1~2年そういうことが表に出て構想が動き始めるところではいるのだと思うので、それに係る言葉をこの中に入れておかないと来年度の地域生活支援部会の中でどんなものがほしいのかという話を話題にできなくなっていく。それがこの「まとめ」の中にいることなのです。まとめというか「次年度の課題と方針の中に」いることです。

(井上副部会長)

- ・さっき北達委員が言ってくれた利用者の高齢化と重度化というのは非常にそうだなと思って、そちらにこちらもリンクして、そこだけではないと思うのですが。

(北達委員)

- ・何か合い言葉がいるのですかね。でも、拠点と言う方がそこに乗りやすいのですかね。皆で共通の、私達が24時間・365日ということを言うのが、例えばそういう制度につながるのか。でも、逆にそういうことを言うがために今度違うものがということもあるので、皆で合い言葉を作った方が良いのですか？保健所さんとかどうなのですか？何かそういう制作にうまくリンクしていくためには皆でひとつ合い言葉を作った方が良いのですか？拠点、拠点と言った方がつながるのですか？そんなわざとらしいことよりかは「緊急の時に」という「緊急」という言葉がキーワードなのか。

(山本委員)

- ・国の示しているハードというかもの的には地域生活支援拠点というものが自治体ごとにひとつが目標ということは言っているので、行政的にはお題目としては言いやすいし、通りやすい話です。

(北達委員)

- ・このまとめの中でこれが唐突に出てきても、もうひとつ。

(山本委員)

- ・これはちょっと、そうですね。前段のその協議の中で高齢化とか重篤化とかそういったことがある中で、それを解決する手段のひとつとして、こういうものがあるのではないかということで出てくるのであれば良いかなという風には思います。これしかないというわけではないとは思いますが。

(部会長)

- ・ここで、文字としてあげるのなら「地域の支援の拠点となるべき施設の整備」みたいな、「事業の整備」みたいな文言になって、それが来年度行政的に言う地域生活支援拠点整備事業にあたるよという風につなげていかないといけないかと思います。

(事務局)

- ・一言よろしいですか？要はアンケート結果について配りました。でも、アンケートというのは結果を予想してやるもので、書く人は当然何か見返りというか期待をして書いているはずです。ただ、現実論として結果、配っただけです。そうではなくて、それを受けた形での地域生活支援拠点というのを僕はやるべきだと思います。それと、この地域は先程、部会長もおっしゃっていましたが地域拠点、確かに中身の検討は必要だと思うのですが、ただ、支援校の立て替えによる、24時間施設ができるかどうかはわかりませんが、それができたらまた変わってしまいます。だったら、2段階の中身で部会等で検討していくべきだと思います。その拠点の中身、体制。だから結構複雑にはなると思うのですが、とりあえず当面、支援校の建て替えなり、いつ終わるかまだはっきりわかりません。ただ、その間最低4~5年はあると思います。その間はどうしていくのか。それを充実させていくなら支援校にこんなのがあった方が良いという形は入っていく、考えていくべきだと私は思うのですが。

(部会長)

- ・当面どうするかと、理想のものをどう作るかの2段階という話ですよね。それはそうだと思うのですが、それは来年度の検討課題の中に何から着手するかというのは入れるとして、アンケート結果、アンケートから見えてきたものを我々は元にして動くというところで言ったら、やっぱり家族の高齢化、障がい当事者の高齢化、地域生活の中での不安ということに対しきちんと対応できる地域生活のための相談拠点ですね。言葉を足していくと、事業という名称ではなくてそういうものが必要ではないかということについて検討していく必要があるということが今年度のとりあえずのステップですね。それについて今後も考えていくというような取組みを継続しますというまとめにしないといけないと思います。部会名を何にするかということも含めて、GMが言った当面どうするかと未来図をどう描くかというところの整理の仕方はあると思うのですが、このアンケートから見えてきたことについてはそういう生活上の不安感や何かが起きた時の対応について議論していく必要があるというところが導き出されてきた現在の状況にあるという風にまとめられますか？それを受け自立支援協議会として来年度の部会をどう構築していくかと部会の名称をどういうものにして、この部会では何を議論しているのかわかりやすくなるかというところは再度精査する必要があるかなと思います。というところで、この文章について今ここで議論をするのは少し無理があるので今言ったこととメモとテープ起こしをして副部会長の方で文章をまとめてアップしてほしいと思います。最後、報告書の概要を明日の運営委員会にあげて、最終が30日でしたか？

(事務局)

- ・30日の運営委員会で固めます。明日から30日までの間に事務局の方に送っていただきたい。

(部会長)

- ・そうしたら、この方向性は明日の運営委員会で報告するとして、文章については30日までには最終決定を出さないといけないので地域生活支援部会としては今大体の方向性としては合意がとれたものとして、あとは文章をメール上のやり取りでということで案を井上副部会長の方から出してもらったら、それを皆で触ってやり取りすると非常にややこ

しくなって、元案がどれなのかわからなくなってしまうので、一旦、井上副部会長から出してもらった案を、原稿を直さないでコメントを入れる方法か、もしくはコメントだけを抜いてもらうか、手書きでも良いので、それを返すということで、その期限をいつまでにしますか？ 17日の金曜日で良いですか？ 17日の午前中にGMに送ってもらって、GMから全員に配信してください。それに対するコメントの期限を24日の午前中までにGMの方に返してください。皆さん、一斉送信で返すことは可能ですか？ できたら、「何行目、何々」とコメントだけ抜き書きの方法をお願いします。そうすると紙面をたくさん使わないので。そうしましょう。できたら一斉送信しましょう。お互いの意見もわかるので。良いですか？ 那を受けて、いつまでに修正原稿をあげられますか？ もっと、早くに皆のコメントがほしいですか？ 2回目のところは誤字・脱字の確認ぐらいで、できればいきたいと思います。例えば、違う意見が出た時にはそれがどうなるかは副部会長に任すとして、もう少し早くほしいですか？

(井上副部会長)

- ・23日締めにしてもらって、僕が出すのが27日にしてもらっても良いですか？

(部会長)

- ・23日の午前中までに一斉送信で返してください。27日に井上副部会長から再度送信されるので、そこは至急で翌日ぐらいに返信をしてあげてください。よろしいでしょうか？

ということで、駆け足になりますがやったことや方向性の合意はとれていると思っています。だから、大きく意見が食い違うことはないかと思っていますが、最後の作業のところですみませんが皆さんのお力をお願いします。

(事務局)

- ・ちょっと報告ですが、先日、私のところに直接、委員以外の方から電話がありまして、色々やり取りがあったのですが、休み明けの次の日に直接メモを手渡されて、これを部会で読んでほしいということなので読み上げます。

「手渡しのメモで失礼します。先日の電話で始めに申し上げたのはアンケートの結果をホームページに載せている。

回答者で希望する人には郵送する。という旨をおつふく通信等に掲載することはできないかというお問い合わせです。

自立支援協議会においてはおつふく通信でも触れた記事があったように記憶していますので可能ではないかなと思いました。アンケート結果そのものを掲載すべきであるということではありません。意見については報告してくださいとのことです」ということでしたので念のためお伝えしておきます。」

ということで、その前の日に色々電話があったのですが、これをきっちり言ってほしいということだったので、とりあえずお伝えさせていただきました。以上です。

(部会長)

- ・それは検討しますか？

(事務局)

- ・する必要はないです。

(部会長)

- ・要はアンケート結果の報告をあらゆるところにまいたはずだったのですが、その情報が手元にいなかった人がいらっしゃったみたいで、その連絡ができなかったかというところで、その方法としておつふく通信に載せてはどうかということなのですが、おつふく通信は年に2回ですか？

(事務局)

- ・時期的に言うと6月と12月です。12月号の発行ということは12月1日の2ヶ月前が締め切りになります。

(部会長)

- ・おつふく通信は年2回の発行なので、今このタイミングで、配ったタイミングでおつふく通信に載せるとしたら、次の6月、年度が替わった6月に平成26年度アンケート結果についてホームページに載っていますのでということを書きますかということになるので、ちょっとあまりにもあまりにも間延びした話かなと思うのですが、それでも載せておきますか？

(安蒜委員)

- ・でも、それは事務組合が作っているもので、私達が載せる・載せないではなくてお願いするか・しないかで決定は向

こうですよね？

(部会長)

・もちろんです。自立支援協議会にこのことがいっている以上は部会で報告をしてということなので、部会でおつふく通信に載せてもらえるようにお願いしますか？でも、したからと言って、乙福が載せてくれるかどうかはわかりませんが。部会としてお願いしますかということと、時期的なものとして10月が原稿締め切りだから12月に間に合わなかつたので、それで言うと載せるとしても次の6月号になるので非常に間延びした話にもなるから、それをお願いしますか？年度も替わるしというところなのですが。

(事務局)

・例えば、現実論として自立支援協議会関連を載せるとした場合、何月号にこんなものを載せたいというのを事前にお話しされた後に中身をお互い考えて載せるべきだと思います。誰かが急に言って、「はい。わかりました。」という話には絶対にならないと思います。

(部会長)

・はい。もちろんそうなのですが。可能な限り周知については我々は考えました。だけど、結果として受け取れていない人がいたということについては対応は考えていいかないといけない。だけど、おつふく通信にそれを載せるしたら、今度は「アンケートって何だったのか」というところから、また全く知らない人が見た時に「これは何のことか」となった時に「こういうアンケートをこういう風にして、こういう報告書にしたのでこういう風に載っていますよ。」という紙面を使って書いてもらうことになるので、その提案はちょっと非現実的かなというのは思います。頼みますかと言っていますが一行で良いのであれば、「どこどこの自転車置き場が閉鎖しました。」みたいな話であれば別に説明はいらないのですが、「アンケートの回答が」と言っても説明がたくさんいるところでは非常にお願いのしよりも厳しいところかなという風には思いますが、良いですか？

(北達委員)

・質問の精度というか、その回答の仕方についても色々とまた反省があったところもあるので、ちょっととなかなか。ただ、手元にないという方にはアップの情報とか個々に何か。

(部会長)

・どこに行っても、ちゃんとありますよ。「あのアンケートの報告があったみたいだけれど、どこにあるの？」と言ったら手に入るルートはいっぱいあるのですが、それ以前の問題として、そういう連絡がいるのではないかという問い合わせに対しては、このアンケートの反省としてはもちろん間延びてしまっているから余計にそうなので、反省としてはしていないといけないことだとは思うけれども、今それに対応できるかと言ったら今回については反省をするということで終わっておいて、ただ、ご報告をいただいたので話題にする必要はあると思うので。良いでしょうか？

ということで終わります。お疲れ様でした。